

# 立教大学

## 取組名称: CSRインターンシップ・プログラム

**【取組概要】** 本プログラムでは、産業界において急務とされているCSRの推進人材の育成を、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科、パートナー企業、NPO/NGO等社会組織の産学民協同により行ってきた。インターンシップを、CSRに関連する分野のノウハウを持つNPO等が支援することにより、インターンシップ活動の質的向上、企業におけるCSR課題の解決、本学における指導方法の充実に向けた取り組みを行ってきた。



立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科  
CSRインターンシップ・プログラム

立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科 CSRインターンシップ・プログラム (2024年度)

それいけ! インターン! '07-'08

5月

立教大学 21世紀社会デザイン研究科

継続的発展につながるCSRの必要性を実感

11月にインターンに参加してから早くも6ヶ月を経過しました。この間CSRレポートのペンマーク対象も「化学」「製造」「自動車」と3業種を体験しました。その結果は素晴らしいが、実態として、最近増加しつつある「持ち株会社」に取組む予定で進めています。

一方、他の業種では、2009年発行のGRI (Global Reporting Initiative) 第3版基準でみたCSR活動結果の開示率の低さについて、どの程度改善されているかについて調査しています。

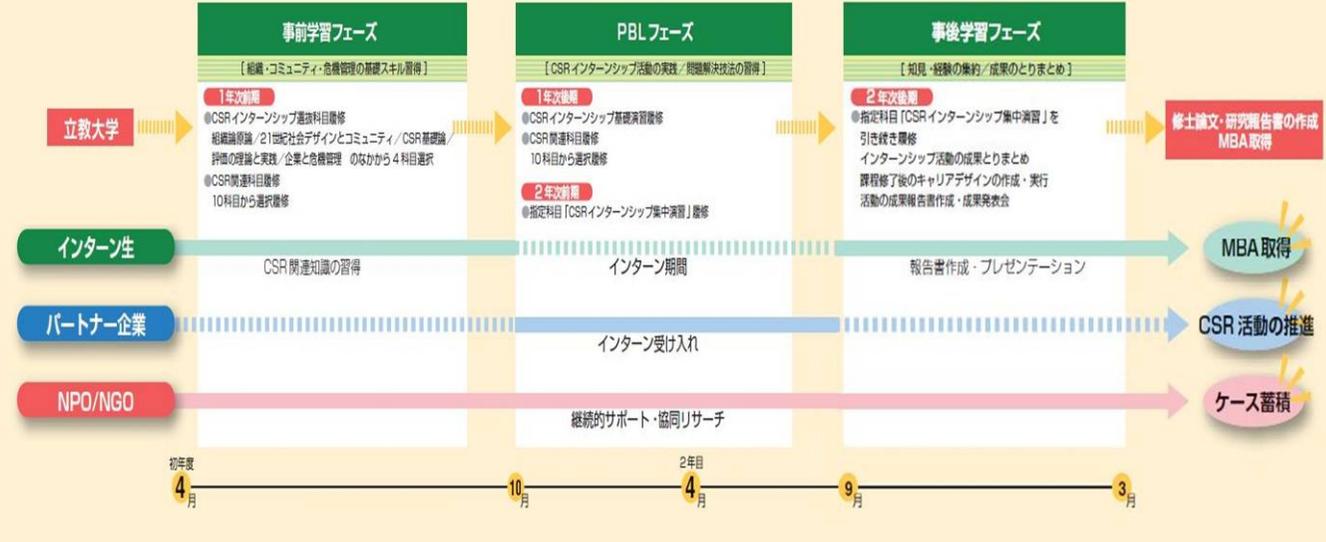
ユウキョウさん

社長のペンマーク調査やGRI開示の調査等について、自分の得意分野を持つ企業に当たってくださっています。作成していただいた多くの資料が、実際にクライアントに送る説明資料の基本データとして活用され、弊社が持っている業務での貢献が大きいといえます。これらの基礎データにオンラインの視点をもった分析や、各種イベントなどがからみ出した最新情報を加味し、独自の見解をまとめていただけることを期待しています。

中野美香 プログラムコーディネーター

立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科 CSRインターンシップ・プログラム事務局  
TEL / FAX: 03-3985-4725  
Email: csr\_internship@rikkyo.ac.jp

### CSRインターンシップ・プログラムのプロセス



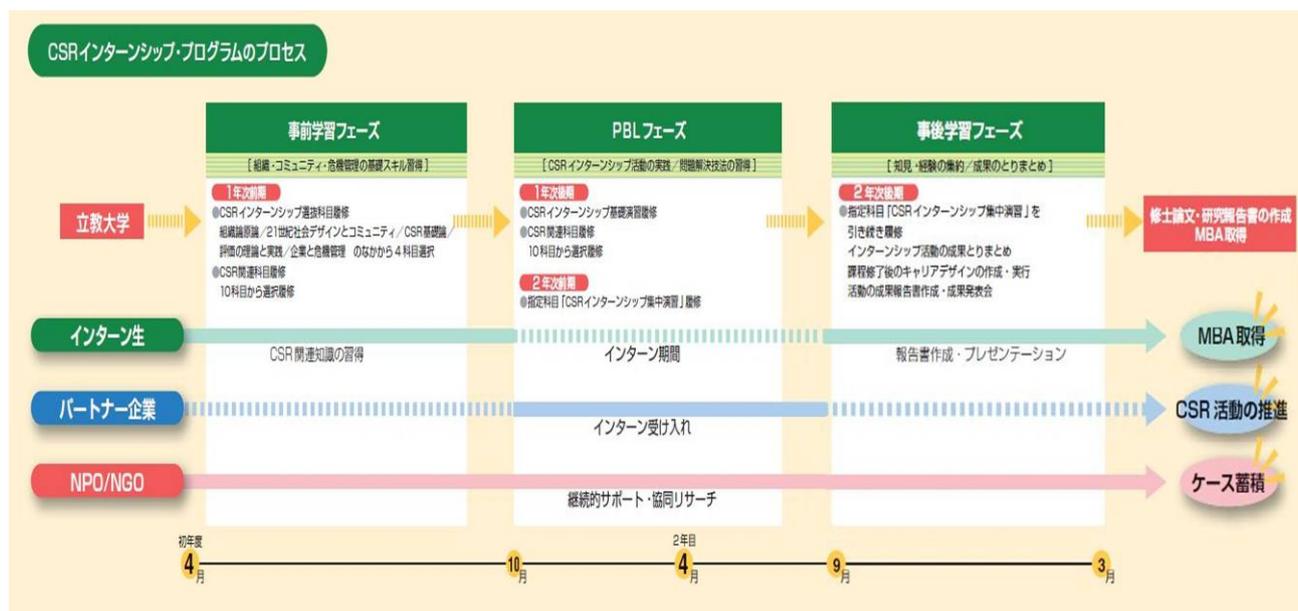
**【成果等】** 受入企業のCSR実施体制確立への支援、企業のみならず、CSR推進に重要な役割を果たすNPO法人へのインターン派遣の実現、NPOとの協働・支援を通じた複数の企業のCSRやコース・マーケティングの充実など、インターンシップの新たな実践的成果を生み出した。また、CSR研究会や公開講演会などにより外部の企業やNPO/NGOに対しても広く共有・啓発をすることができたのは大きな成果として挙げられる。

## 産学連携による実践型人材育成事業 ―長期インターンシップ・プログラム開発― 最終評価結果

大 学 名	立教大学
教育プロジェクト名称	CSRインターンシップ・プログラム
事業責任者	21世紀社会デザイン研究科 教授 中村陽一

### 事業概要

本プログラムでは、産業界において急務とされているCSRの推進人材の育成を、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科、パートナー企業、NPO/NGO等社会組織の産学民協同により行ってきた。インターンシップを、CSRと関連する分野のノウハウを持つNPO等が支援することにより、インターンシップ活動の質的向上、企業におけるCSR課題の解決、本学における指導方法の充実に向けた取り組みを行ってきた。



### 最終評価結果

(総合評価) A: 所期の計画と同等の取組が行われた

#### コメント

##### 《優れた点》

- 本プログラムは、採択された中では唯一の社会科学系大学院の取り組みであり、産業界が対応を迫られているCSR(企業の社会的責任)という、日本ではまだなじみの薄い社会制度を対象領域としている。しかし、国際的な社会ではすでに企業もNPOも当然の義務としてCSRが位置付けられていることを考えれば、この領域での人材育成と挑戦性は社会的に極めて意味のあるモデルケースといえる。
- CSRの専門家の手厚い指導のもとに、企業でのCSRの実施に道を開くことを、人材育成とセットで実現できるプログラムである。インターンシップを履修した者の中には、会社に戻った後に自らの提案でCSR関連部に異動した例が出るなど、効果が出ている。
- 今はCSRをこなすのが精一杯だが、これからは日本版を作って発信する時代である。継続できるかどうかは課題ではあるが、今後の取り組みに期待したい。

##### 《改善を要する点》

- 予算のかなりの部分が、大学のCSR教育準備(海外調査やCSR研究会)のための経費に使われ、実際のインターンシップ実施経費にまで充分回らなかったことは今後の課題である。また、履修人員が少ない点や、社会人のインターンシップを何処で行うかについて工夫が欲しい。
- CSR概念の深化・発展を大学での研究テーマとしながら、CSR教育と社会に波及・継続していくシステムの維持を期待したい。